

兵庫森林管理署

担当者
森林技術指導官:下釜勝夫
地域林政調整官:尾川隆造
TEL:050-3160-6170

- ▶ 兵庫県の森林は、北側は日本海沿岸から、南側は瀬戸内海沿岸及び淡路島まで広範囲に分布しており、県土の67% (562千ha) が森林であり、このうち国有林は24千haあります。
民有林では、スギ、ヒノキを中心とする人工林が222千haで、人工林率が42%と全国平均46%に比べやや低い状況にあります。また、戦後に造林された人工林は、保育・間伐作業が必要な資源の造成期から、資源の成熟に伴い、利用段階に移行しつつあり、木材等生産機能と地球温暖化防止機能の発揮の観点からは、これらの成熟した森林資源を伐採し、利用した上で跡地に再造林を行う「若返り」が求められています。
我が国の林業・木材産業は、近年国産材供給量が回復傾向にあるものの、木材自給率は依然として低い水準にあり、また、長期にわたる林業産出額や林業所得の減少、森林所有者の経営意欲の低迷、国産材の生産・流通構造の改革の遅れ等、引き続き厳しい状況にあり、兵庫県においても森林の適切な整備が行われない箇所や二ホンシカによる森林被害の増加など、森林の有する多面的機能の発揮への影響も懸念されています。
一方、県内の国有林率はわずか4%と低いながらも、揖保川森林計画区の宍粟市内に12千haが所在し、水源涵養機能等の公益的機能を発揮するとともに地域林業の中核を担っています。また、加古川森林計画区(県南東部地域)、円山川森林計画区(県北部の日本海側)に所在する国有林は、小面積団地が点在し、特に都市部近郊の国有林は、保健・文化・教育的な利用の場としての森林の多面的機能の発揮に寄与しています。
- ▶ 国有林が所在する市町の地域課題や共通課題について、各市町の担当者から幅広い情報収集を行っており、今後、各課題の解決に向けて連携した取組を展開することとしています。また、宍粟市地域における森林・林業・木材産業の活性化に向けて平成25年度からの継続した取組、たつの市内の国有林における二ホンシカ被害対策の取組を展開しました。その他三木市や篠山市でも、同市自ら国有林内にシカ等捕獲用の檻を設置する等、有害鳥獣対策で連携を図りました。



(国有林内で兵庫県職員との合同研修会の様子)

山村振興

【課題】 宍粟市地域の林業・木材産業の振興と新たな雇用の創出(継続)

【取組状況】

- 市民の健康増進と観光振興を目的とした「森林セラピー基地」の認定申請について、赤西国有林のフィールドを提供。
- 宍粟市内の国有林において、兵庫県立山崎高校の1、2年生59名を対象にインターンシップを実施。

【成果と今後の課題】

- 平成28年度事業開始に向けて、試験的に一般から応募者を募りモニターツアーを実施。アンケートによると参加者の多くに好評であった。
- 平成26年度は山崎高校から3名の者が森林組合へ就職。今後も国有林を活用したインターンシップの継続による森林・林業分野への雇用の創出を予定。



(森林セラピーモニターツアーの様子)



(高性能林業機械を見学する様子)

鳥獣害対策の推進

【課題】 二ホンシカの個体数管理と防除対策

【取組状況】

- 兵庫県たつの市地域において、鳥獣出没対策用の防護柵を設置しており、隣接する国有林においても、平成25年度から継続して同様の防護柵の設置を実施。
- 鶏籠山及び札梁山国有林において、たつの市と連携しながら囲い罠を設置し、二ホンシカの捕獲を実施。

【成果と今後の課題】

- 鶏籠山国有林で延長約1,300mの防護柵を設置し、住宅地等への二ホンシカの出没を防止。
- 囲い罠の設置による二ホンシカの捕獲を実施。また、更なる捕獲頭数の増加に向けて、誘引用の餌、捕獲場所の検討を予定。



(シカ柵設置の様子)



(囲い罠設置の様子)